



2006 年度前期

「学生による授業評価アンケート」全学集計結果(概要 分析)

2006 年 11 月

法政大学 FD 推進センター

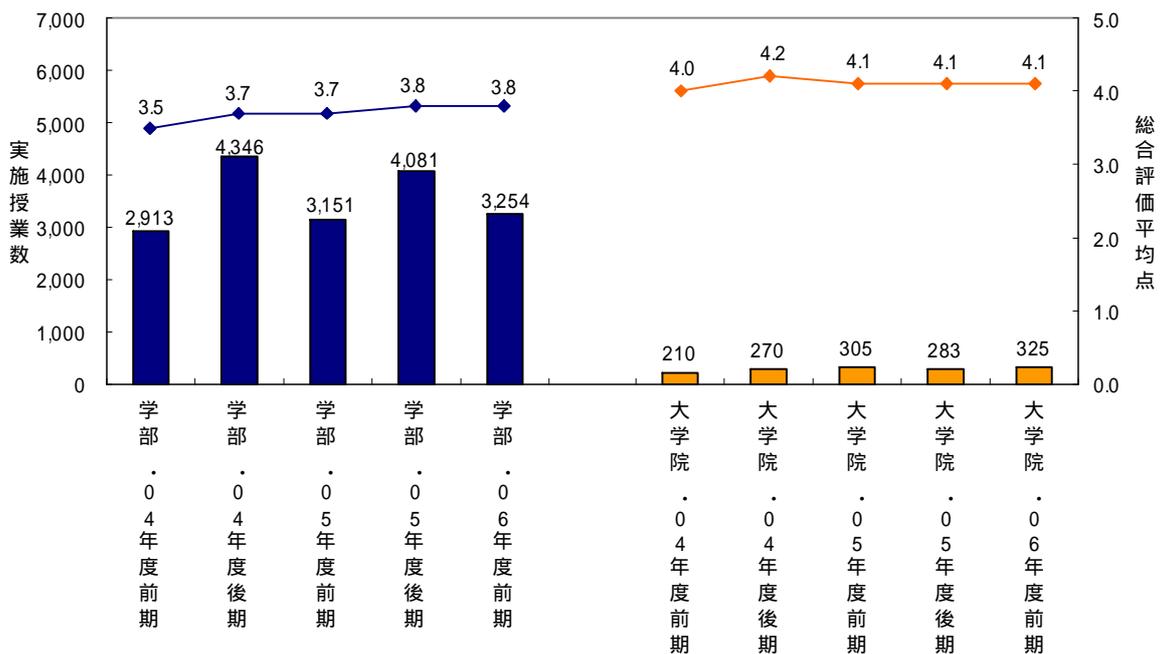
1.概要

法政大学では、2006 年 6 月 26 日から 7 月 16 日まで(市ヶ谷地区大学院では 7 月 10 日～31 日、四半期制大学院では 5 月 22 日から 6 月 3 日および 7 月 10 日から 31 日など、一部例外あり)、全学一斉に「学生による授業評価アンケート」を実施しました。これは、2004 年度の前期に全学 FD 推進委員会の下でスタートしてから 5 回目にあたります。

本アンケートの実施目的は、これまでと同様、学生が各授業をどのように見ているのかという観点からの情報収集と教員個々の気づきを目的とし、ひいては各授業の質の向上につなげること、学生の授業参加への意識を高めることです。

今回のアンケートの実施授業数は、学部は 3,254、大学院は 325 で、全学の実施率は約 90%でした(図表 1)。実施授業数は、学部、大学院とも前年度同期を上回っています。一方、授業の総合評価(1～5 点の 5 段階評価)の平均点は、学部が 3.8 点、大学院が 4.1 点で、前回の結果から横ばいでした。ただし、学部では前年度同期に比べて若干の改善が見られます。各質問項目のこれまで 5 回分の結果については、6～8 ページの < 付属統計表 > にまとめてありますので、ご覧下さい。

図表1 「学生による授業評価アンケート」の実施授業数、総合評価平均点の推移



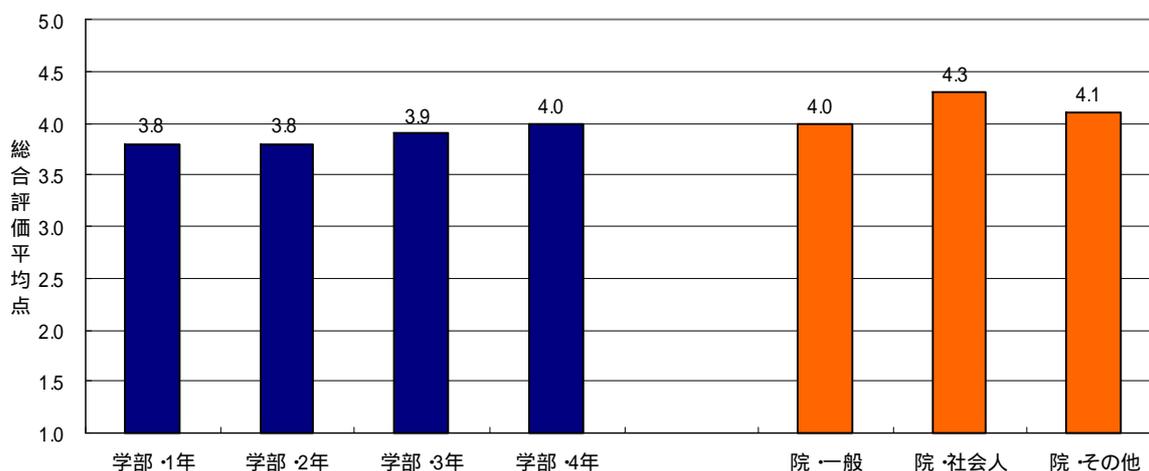
2. 学生および授業属性による総合評価平均点の傾向

授業の総合評価平均点(学部、大学院の間 10)は、学生や授業の属性によっていくつかの傾向が見られます。

まず、学部では1・2年生よりも3・4年生の方が満足度が若干高くなっています(図表2)。授業への出席率(問2)や積極的な取り組み(問3)については1・2年生が3・4年生を上回っていますが、授業履修の理由が「シラバスを見て授業内容に関心を持ったから」である割合(問1)、授業内容への興味(問5)、授業内容の理解(問6)は3・4年生が1・2年生を上回っているということが、その理由として考えられます。(なお、こうしたクロス集計の結果は本報告には掲載していませんが、FD推進センターのHPに掲載しています。)

つぎに、大学院では社会人院生の方が一般やその他の院生よりも満足度が高くなっています(図表2)。こうした傾向は、問10に限らず、全ての質問項目で同様に見られます。

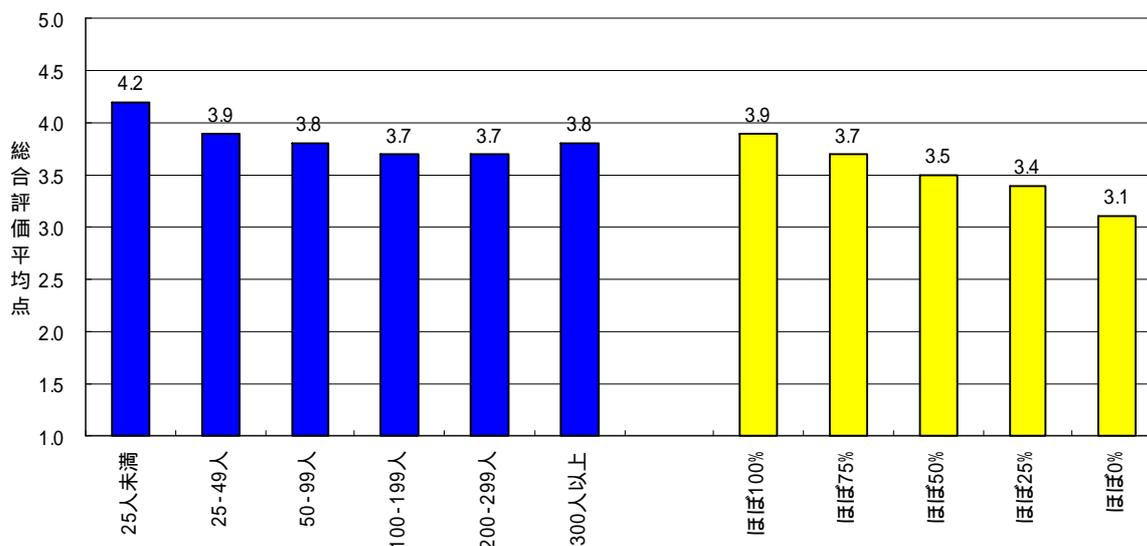
図表2 学部・学年別、大学院・入試経路別の総合評価平均点



また、学部授業では受講者数規模や出席率による違いも顕著です(図表3)。まず、受講者数規模別に見ると、25人未満かどうかで4点を上回るかどうかという大きな違いがあります。さらに50人以上かそれ未満かでも違いが見られます。こうした受講者数規模による違いは、出席率(問2)、授業への積極的取り組み(問3)、授業内容への興味(問5)、授業内容の理解(問6)、教え方の熱意(問7)、教え方の工夫(問8)など他の質問項目でも一貫して見られます。

一方、出席率と満足度も比例しています。出席率が高いと授業内容がよく理解できて満足度が高くなるのか、逆に授業内容に興味があり満足しているから出席率が高くなるのか、あるいはその両方なのか、識別するのは困難です。ただ、授業の履修理由(問1)と出席率の関係をみると、「単位が取りやすいと思ったから」、「時間割の都合から」という履修理由の場合、出席率が低いという傾向がありますので、学生側の意識に問題の一端があると言えるでしょう。もっとも、あとの分析結果が示しているように、教員側の熱意や工夫が学生側の意欲や姿勢に影響するという側面があることも軽視すべきではありません。

図表3 学部・受講者数規模別および出席率別の総合評価平均点



3. 授業毎の総合評価平均点の分布状況

以上の集計結果は、いずれも個々の学生の回答から直接、さまざまなクロス集計を行った結果に基づいています。一方、担当教員に対しては、それぞれの担当授業毎に集計した結果が知らされており、自分の担当授業が他の授業と比べてどのような位置づけにあるのか知りたいという要望がしばしばFD推進センターに寄せられてきました。そこで、前回に引き続き、授業毎に集計した総合評価点の分布がどうなっているか、集計してみました(図表4)。

まず、学部と大学院を比べると、大学院の方が分布が右に偏っており、4点以上の割合がかなり高いことがわかります(学部の52%に対し、大学院は71%)。また、全授業について集計したものと、アンケート回答者が10人以上の授業に限って集計したものを比べると、前者の方がばらつきが大きく、特に高得点授業の割合が高めに出る傾向が見られます。そこで、図表4の以下の項目(学部・授業種類別と学部講義・受講者数規模別)では、回答者が10人以上の授業に限って集計しています。

学部の授業種類別にみると、実技、演習といった科目で高得点授業の割合が高くなっています。特に、実技では実に90%の授業が4点以上です。これに対し、講義科目では4点以上の授業は39%と半分以下にとどまります。

学部の講義について、さらに受講者数の規模別にみると、やはり受講者数の少ない授業ほど高得点授業の割合が高くなっています。具体的には、4点以上の授業の割合は、25人未満授業で71%、25-49人規模で52%と半数を超えており、以下、50-99人規模で36%、100-199人規模で27%、200-299人規模で30%、300人以上規模で29%となっています。さきほどの図表3の結果と同様、25人未満かどうかでまず大きな違いがあり、ついで50人以上かそれ未満かでもかなりの違いが見られます。

図表 4 授業種類別の総合評価平均点の平均および分布
(授業毎に集計した結果を観測単位としたもの)

授業種類	授業数	平均	授業毎の平均点の分布割合 (%)								合計
			1-1.5 未満	1.5-2 未満	2-2.5 未満	2.5-3 未満	3-3.5 未満	3.5-4 未満	4-4.5 未満	4.5-5 以下	
学部全体	3,269	3.70	-	0.2	1.3	3.9	13.9	29.4	36.8	14.7	100.0
同上 (回答者 10人以上)	2,953	3.66	-	0.2	1.3	4.2	15.0	31.1	36.6	11.6	100.0
大学院全体	325	3.91	0.3	-	-	2.8	7.7	18.2	45.8	25.2	100.0
同上 (回答者 10人以上)	176	3.82	-	-	-	4.5	9.1	22.2	45.5	18.8	100.0
< 学部 授業種類別 (回答者 10人以上) >											
講義	1,362	3.56	-	0.2	0.8	5.2	18.9	36.2	32.2	6.4	100.0
演習	199	3.74	-	-	2.5	3.5	13.6	23.1	39.2	18.1	100.0
語学	1,157	3.69	-	0.2	2.0	3.9	13.0	28.2	40.9	11.9	100.0
実験	82	3.68	-	-	-	2.4	8.5	47.6	34.1	7.3	100.0
実技	144	4.20	-	-	-	-	1.4	8.3	39.6	50.7	100.0
< 学部講義 受講者数規模別 (回答者 10人以上) >											
25人未満	576	3.93	-	-	0.9	1.4	6.4	20.5	43.1	27.8	100.0
25-49人	1,290	3.68	-	0.2	1.6	3.6	13.6	29.0	40.8	11.2	100.0
50-99人	478	3.52	-	0.4	1.3	5.9	19.7	36.8	31.6	4.4	100.0
100-199人	376	3.43	-	0.3	1.6	7.4	23.1	40.2	24.5	2.9	100.0
200-299人	123	3.49	-	-	-	5.7	23.6	40.7	26.8	3.3	100.0
300人以上	110	3.47	-	-	0.9	6.4	20.0	43.6	28.2	0.9	100.0

注:「総合評価平均点」とは、授業に対する総合的な満足度を尋ねた問10の結果を、授業毎に平均したもの(1~5点の5段階評価)。

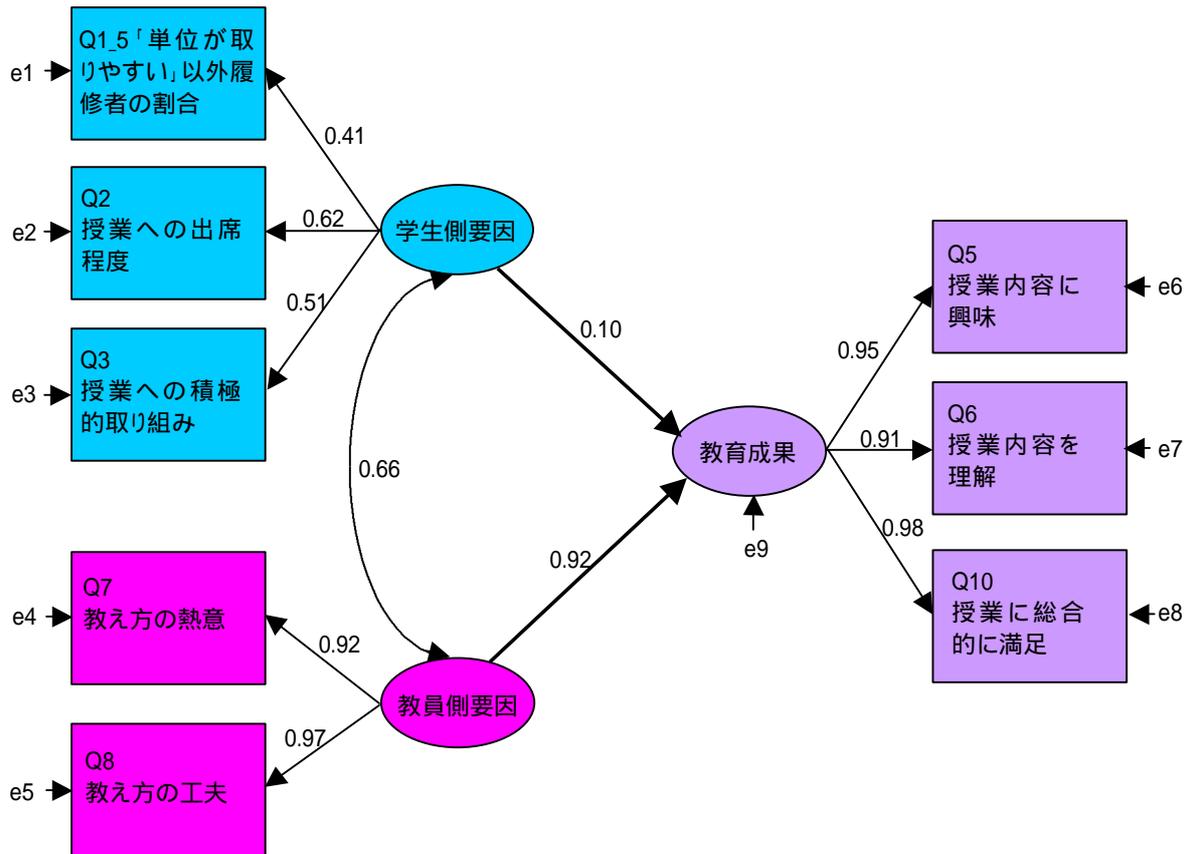
4. アンケート質問項目間の関係

最後に、さまざまな質問項目間の関係を見てみたいと思います。分析手法は共分散構造分析(構造方程式モデリングとも呼ばれる)です。この手法は、通常の回帰分析が実際に観測された変数間の関連を分析する手法であるのに対し、実際には観測されない構成概念を潜在変数として定義したり、それらを因果モデルの中に取り込んだりできる点でメリットがあります。推計モデルと推計結果は図表5に示したとおりですが、順番に説明しましょう。

まず、楕円で囲んだ3つの変数(潜在変数)に注目してください。単方向の矢印が示すように、「学生側要因」と「教員側要因」の2つの変数がそれぞれ「教育成果」に影響を及ぼしていると考えます。「学生側要因」と「教員側要因」が両方向の矢印でつながれているのは、これらの間に相関関係があることを想定しています。

これら3つの変数は、いずれも直接観測される変数ではなく、それぞれアンケート調査に含まれるいくつかの観測変数(図では四角で表示)によって構成される構成概念(因子分析における因子に相当)と考えます。具体的に言うと、まず「学生側要因」は、「Q1_5『単位が取りやすい』以外履修者の割合」、「Q2 授業への出席程度」、「Q3 授業への積極的取り組み」という3つの観測変数によって構成されていると考えます。つぎに「教員側要因」は、「Q7 教え方の熱意」と「Q8 教え方の工夫」の2つの観測変数によって構成されていると考えます。最後に、「教育成果」は、「Q5 授業内容に興味」、「Q6 授業内容を理解」、「Q10 授業に総合的に満足」という3つの観測変数によって構成されていると考えます。

図表 5 共分散構造分析による「教育成果」への影響要因の推計結果



注: 1) 使用データは、学部アンケートを授業毎に集計した結果を観測単位としたもので、サンプル数は 3,270。
 2) Q1_5 は、 $1 - [\text{Q1でを選んだ学生数} / \text{回答学生数}]$ 。その他の観測変数は、いずれも各問(5段階評価)に対する授業毎の有効回答の平均値。
 3) e1 ~ e9 は誤差変数。

以上が推計モデルの概要です。つぎに推計結果についてです。単方向の矢印についた数字は標準化係数の推計値です。標準化された係数の推計値とは、各変数を平均が 0、標準偏差が 1 となるように変換した上で推計された係数値のことで、説明変数が 1 標準偏差分だけ変動したときに、被説明変数が(やはり標準偏差を単位に測ったとき)どれだけ変動するかを表しています。

まず、3 つの構成概念(潜在変数)それぞれによって各観測変数が影響を受けている程度を見てみましょう。「学生側要因」から 3 つの観測変数への係数値は 0.4 から 0.6 と必ずしも高くありませんが、「教員側要因」や「教育成果」からそれぞれの観測変数への係数値はいずれも 0.9 を超えており、これら構成概念がそれぞれの観測変数によって十分表現されていると言えます。

つぎに、3 つの潜在変数の間の関係です。「学生側要因」から「教育成果」への係数値は 0.1 なのに対し、「教員側要因」から「教育成果」への係数値は 0.9 となっています。つまり、「教育成果」に直接大きく影響しているのは、「学生側要因」よりも「教員側要因」であり、「教員側要因」の改善はほぼストレートに「教育成果」の改善につながると言えます。また、「学生側要因」と「教員側要因」の相関係数は 0.66 とかなり高いので、「教員側要因」の改善によって「学生側要因」の改善も期待できます。

< 付属統計表 > 全学集計結果の概要(2004 年度前期～2006 年度前期)

この授業を履修した理由を教えてください(複数回答可)。

区分	実施授業数	回答者数	理由						計	
			1. 必須科目・選択必修科目だから	2. シラバスを見て授業内容に関心を持ったから	3. 先輩・友人に薦められたから	4. 時間の都合から	5. 単位がとりやすいと思ったから	6. その他		
< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	40.6	24.8	4.0	22.2	6.3	3.1	100.0	
04 後期	4,346	141,227	42.4	24.9	3.6	19.1	5.3	2.5	100.0	
05 前期	3,151	123,621	49.4	26.8	5.0	23.6	7.2	3.4	100.0	
05 後期	4,081	118,292	54.9	26.1	4.0	21.0	6.3	2.9	100.0	
06 前期	3,254	117,845	51.7	26.3	4.8	22.8	7.3	3.2	100.0	

あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

区分	実施授業数	回答者数	出席程度						計	有効回答の平均値
			5. ほぼ100%	4. ほぼ75%	3. ほぼ50%	2. ほぼ25%	1. ほぼ0%	無回答		
< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	64.9	22.1	6.2	2.9	0.9	2.9	100.0	87.9
04 後期	4,346	141,227	57.2	28.0	7.6	2.9	0.8	3.4	100.0	85.7
05 前期	3,151	123,621	65.8	23.1	5.8	2.8	0.9	1.6	100.0	88.1
05 後期	4,081	118,292	60.7	29.0	6.9	2.4	0.7	0.3	100.0	86.8
06 前期	3,254	117,845	67.1	24.0	5.2	2.2	0.7	0.9	100.0	89.1

区分	実施授業数	回答者数	回答選択肢 (単位:%)					計	有効回答の平均点	
			5. 大いにそうである	4. そうである	3. どちらともいえない	2. そうでない	1. まったくそうでない			
< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	20.8	38.4	25.3	9.2	3.4	3.0	100.0	3.7
04 後期	4,346	141,227	22.5	39.5	23.7	8.0	2.8	3.5	100.0	3.7
05 前期	3,151	123,621	24.2	40.6	23.1	7.4	2.8	1.9	100.0	3.8
05 後期	4,081	118,292	25.9	42.5	22.0	6.6	2.3	0.6	100.0	3.8
06 前期	3,254	117,845	26.9	41.2	22.1	6.0	2.3	1.4	100.0	3.9
< 大学院 >										
04 前期	210	2,566	28.4	41.9	17.3	4.2	0.4	7.8	100.0	4.0
04 後期	270	2,510	30.3	43.1	13.0	2.6	0.2	10.8	100.0	4.1
05 前期	305	3,905	31.8	48.2	15.5	3.3	0.8	0.4	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	31.1	48.0	16.5	2.9	1.1	0.4	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	31.6	46.1	17.1	3.0	1.0	1.1	100.0	4.1

あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか。

区分	実施授業数	回答者数	取り組み						計	有効回答の平均点
			5. 大いにそうである	4. そうである	3. どちらともいえない	2. そうでない	1. まったくそうでない	無回答		
< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	20.3	38.1	24.6	8.8	5.2	3.0	100.0	3.6
04 後期	4,346	141,227	22.6	39.4	23.1	7.4	4.1	3.4	100.0	3.7
05 前期	3,151	123,621	24.1	39.8	22.7	7.2	4.2	1.9	100.0	3.7
05 後期	4,081	118,292	26.7	41.6	21.4	6.3	3.4	0.7	100.0	3.8
06 前期	3,254	117,845	26.7	42.3	20.9	5.9	3.1	1.0	100.0	3.8
< 大学院 >										
04 前期	210	2,566	28.4	41.9	17.3	4.2	0.4	7.8	100.0	4.0
04 後期	270	2,510	30.3	43.1	13.0	2.6	0.2	10.8	100.0	4.1
05 前期	305	3,905	31.8	48.2	15.5	3.3	0.8	0.4	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	31.1	48.0	16.5	2.9	1.1	0.4	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	31.6	46.1	17.1	3.0	1.0	1.1	100.0	4.1

この授業の内容に興味が持てましたか。

区分	実施授業数	回答者数	興味						計	有効回答の平均点
			5. 大いに興味がある	4. そうである	3. どちらともいえない	2. そうでない	1. まったく興味がない	無回答		
< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	20.3	38.1	24.6	8.8	5.2	3.0	100.0	3.6
04 後期	4,346	141,227	22.6	39.4	23.1	7.4	4.1	3.4	100.0	3.7
05 前期	3,151	123,621	24.1	39.8	22.7	7.2	4.2	1.9	100.0	3.7
05 後期	4,081	118,292	26.7	41.6	21.4	6.3	3.4	0.7	100.0	3.8
06 前期	3,254	117,845	26.7	42.3	20.9	5.9	3.1	1.0	100.0	3.8
< 大学院 >										
04 前期	210	2,566	28.4	41.9	17.3	4.2	0.4	7.8	100.0	4.0
04 後期	270	2,510	30.3	43.1	13.0	2.6	0.2	10.8	100.0	4.1
05 前期	305	3,905	31.8	48.2	15.5	3.3	0.8	0.4	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	31.1	48.0	16.5	2.9	1.1	0.4	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	31.6	46.1	17.1	3.0	1.0	1.1	100.0	4.1

区分	実施授業数	回答者数	回答選択肢 (単位:%)						計	有効回答の平均点
			5.大いに そうである	4.そう である	3.どち らともい えない	2.そう でない	1.まっ たくそう でない	無回答		
<大学院>										
04 前期	210	2,566	34.4	40.3	13.0	3.2	1.5	7.7	100.0	4.1
04 後期	270	2,510	39.6	38.0	9.2	2.1	0.4	10.8	100.0	4.3
05 前期	305	3,905	39.7	42.8	13.1	2.8	1.0	0.5	100.0	4.2
05 後期	283	2,850	41.2	41.4	12.5	2.9	1.6	0.4	100.0	4.2
06 前期	325	4,070	37.0	46.4	12.0	2.7	1.1	0.8	100.0	4.2
この授業の内容は理解できましたか。										
<学部>										
04 前期	2,913	122,462	13.7	38.0	27.5	11.6	6.1	3.1	100.0	3.4
04 後期	4,346	141,227	16.8	39.4	26.2	9.6	4.5	3.5	100.0	3.6
05 前期	3,151	123,621	17.8	40.9	25.3	8.6	4.6	2.8	100.0	3.6
05 後期	4,081	118,292	20.7	43.0	23.8	7.3	3.7	1.4	100.0	3.7
06 前期	3,254	117,845	21.1	41.7	24.3	8.0	3.7	1.1	100.0	3.7
<大学院>										
04 前期	210	2,566	19.0	44.5	20.0	6.7	2.1	7.7	100.0	3.8
04 後期	270	2,510	21.8	46.8	16.1	3.9	0.7	10.8	100.0	4.0
05 前期	305	3,905	22.2	49.9	20.9	5.1	1.3	0.6	100.0	3.9
05 後期	283	2,850	25.9	49.1	17.9	5.0	1.6	0.6	100.0	3.9
06 前期	325	4,070	21.3	48.5	18.8	4.7	1.6	5.0	100.0	3.9
この授業の教え方は熱意が感じられるものでしたか。										
<学部>										
04 前期	2,913	122,462	25.0	38.8	22.9	6.2	4.1	3.1	100.0	3.8
04 後期	4,346	141,227	27.5	39.9	21.3	4.9	3.0	3.5	100.0	3.9
05 前期	3,151	123,621	28.8	42.0	20.6	4.2	2.6	1.8	100.0	3.9
05 後期	4,081	118,292	32.3	43.3	18.4	3.5	2.0	0.5	100.0	4.0
06 前期	3,254	117,845	31.4	43.7	18.0	3.3	2.1	1.5	100.0	4.0
<大学院>										
04 前期	210	2,566	36.6	40.1	11.9	2.5	1.2	7.8	100.0	4.2
04 後期	270	2,510	42.0	36.1	9.2	1.7	0.4	10.7	100.0	4.3
05 前期	305	3,905	44.5	40.5	11.0	2.4	1.1	0.6	100.0	4.3
05 後期	283	2,850	44.0	40.9	10.2	2.9	1.4	0.6	100.0	4.2
06 前期	325	4,070	40.7	42.5	12.5	2.3	1.1	1.1	100.0	4.2
この授業の内容は、高度職業人を旨とするキャリア形成にとって意義が認められますか。										
<大学院>										
05 前期	305	3,905	32.3	37.4	15.3	2.4	1.7	10.8	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	34.6	37.5	13.3	2.6	2.1	9.9	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	33.8	44.2	16.2	3.2	1.5	1.2	100.0	4.1
この授業で履修の専門分野に関する有用な知識が得られましたか。										
<大学院>										
05 前期	305	3,905	36.2	44.2	14.9	2.8	1.3	0.6	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	38.1	43.4	13.1	3.1	1.8	0.5	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	31.1	47.6	15.5	3.0	1.4	1.3	100.0	4.1

区分	実施授業数	回答者数	回答選択肢 (単位:%)						計	有効回答の平均点
			5.大いに そうである ある	4.そう である	3.ど ちとも いえない	2.そ うで ない	1.ま った くそ うで ない	無回答		
この授業の教え方はわかりやすく工夫されていましたか。										
<学部>										
04 前期	2,913	122,462	17.0	33.7	29.6	10.3	6.2	3.2	100.0	3.5
04 後期	4,346	141,227	20.2	36.0	27.4	8.3	4.6	3.6	100.0	3.6
05 前期	3,151	123,621	22.6	36.5	26.4	8.1	4.6	1.8	100.0	3.7
05 後期	4,081	118,292	26.3	38.6	24.2	6.8	3.6	0.6	100.0	3.8
06 前期	3,254	117,845	25.1	39.1	23.8	6.7	3.7	1.6	100.0	3.8
<大学院>										
04 前期	210	2,566	24.8	39.2	20.2	5.5	2.3	8.0	100.0	3.9
04 後期	270	2,510	30.8	38.6	15.3	3.1	1.3	10.9	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	30.2	43.4	18.5	4.4	2.1	1.3	100.0	4.0
この授業は総合的に見て満足できるものでしたか。										
<学部>										
04 前期	2,913	122,462	18.6	36.8	26.4	9.5	5.6	3.1	100.0	3.5
04 後期	4,346	141,227	21.7	38.9	24.3	7.4	4.2	3.5	100.0	3.7
05 前期	3,151	123,621	21.6	37.4	23.0	7.0	4.3	6.6	100.0	3.7
05 後期	4,081	118,292	25.4	39.9	20.9	5.9	3.5	4.5	100.0	3.8
06 前期	3,254	117,845	24.3	39.0	19.9	5.2	3.1	8.5	100.0	3.8
<大学院>										
04 前期	210	2,566	28.6	40.8	15.9	4.3	2.5	7.8	100.0	4.0
04 後期	270	2,510	34.7	38.9	11.2	3.3	1.0	10.8	100.0	4.2
05 前期	305	3,905	36.6	42.1	12.8	3.7	1.8	3.0	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	37.1	41.3	11.8	3.6	2.2	3.9	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	31.0	41.8	12.9	3.5	1.6	9.3	100.0	4.1

5.まとめ

以上の報告の要点は、つぎの通りです。

- ・ 授業の総合評価(1～5点の5段階評価)の平均点は、学部が3.8点、大学院が4.1点で、前回調査から横ばい。ただし、学部では前年度同期に比べ若干の改善が見られる。
- ・ 学部では1・2年生よりも3・4年生の方で満足度が若干高い。これは、3・4年生の方が授業内容への興味や理解度が高いためと考えられる。一方、大学院では社会人学生の満足度が高い。
- ・ 授業の属性別では、実技、演習科目や、受講者数の少ない授業(特に25人、あるいは50人未満の授業)で満足度が高い。
- ・ 「教育成果」に直接大きく影響しているのは、「学生側要因」ではなく「教員側要因」である。また、「教員側要因」と「学生側要因」の相関はかなり高いので、「教員側要因」の改善によって「学生側要因」の改善も期待できる。

- ・ 本報告に関するお問い合わせやご意見は、法政大学 FD 推進センターまでお寄せ下さい。
〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1
電話：03-3264-4285 / 9929 FAX：03-3264-4123 E-メール：fd-jimu@hosei.ac.jp
- ・ また、FD 推進センターの活動については、<http://www.hosei.ac.jp/fd/> をご覧下さい。